



今日此頃感ずること

國田 芳夫

青い紙に包んであつて其上に黒地に釣鐘の商標が金色で書いてあつたから、鐘紡の製品であつたに違ない十六番位の糸が多かつたと思ふ。何故と云ふと、十六番の糸なら一包の糸の総の数が恰度十六ある。母親から土蔵の中へ行つて十六番の糸を出して来いと言付かると、総の数を算へて肩に擔つて得意然と持つて来たものだ。此糸を又染めても賣つた。裏の物置に藍瓶の破れたのがあつたり、又母親の指が藍色に染つてたのをかすかに記憶してゐるから或はズット昔には自分の家で染めて賣つたのかも知れない。が、私の物心のつく頃には町の染屋で染めさして賣つてた。但し之は紺と淺黄位かと思ふ紺の色や黄色などの所謂ハイカラな色のものは色糸其物を他から仕入れて賣つてた。此種の色糸はガス糸や、シルケツトなどと云ふ絹糸見たやうに光つた——子供心には少くもさう思はれた——ものと一緒、店の奥の方の硝子戸の飾戸の中へ陳列されてあつた。木綿の方は地織

即ち出入のお百姓さんのお上さんや娘さん達に宅から糸をやつて織らした手織反物に限られてあつた。反物としては一反も開屋から仕入れたのを記憶しない尤も反物類は別に呉服屋といふものが町内にあつたから私の店の方は綿糸専門であつたのかも知れない。それから國元の言葉で云ふとカンナ糸の商が相當あつた。綿縫糸のことである。糸の総を総捲にかけて手頃の大きさに更に小総を作つて賣るのである。紺と白とあつて一より一錢位であつたらう之が仲々よく賣れる。今から考へると口銭の少い商だから外の店では之を商ふものがなかつたのではないかと思ふ。それから店の天井か

ノート

候文にはやの如き句讀點は

打たぬもの句讀點を打つては先方に讀方を教へる様で失禮にあたるからだ

ら廣告の紙がブラ下つて居る。之には店の品物の名が書き並べてあつたと思ふ。之を書くのは亡兄作造の役で飛切上紺と云ふ四字だけが今でもハッキリと眼につる。其他は何と云ふ文句があつたか九で覚えてない店の暖簾は三河木綿のゴツ

ゴツしたやつに「吉野屋」と「よし乃や」と漢字と假名と二様に染め抜いた物で作つた。どう云ふ縁喜をかついたのか知らぬが、暖簾を縫ふときは親類や出入の家の女たちが集つて出来るだけ大勢の人の手で縫うた毎年

【朝】味噌汁——豆腐
小付——佃煮

【晝】清汁——鮎 豆腐
小付——小松菜ひたし

【晩】コロッケ——馬鈴薯
牛肉 玉ねぎ

はない。二三年目に一度と思ふが此時は家が賑やかで多少御馳走にもあり付けるので私の楽しみの一つであつた。

此外、田畑も多少はあつた。田は小作にした何程あつたか知らんが二十人位の家内の者が麥半分を入れて一年中ヤット喰ひ足りる程度の小作米があつた喰ふ米を己れの家では買はぬと云ふのが子供心の自慢の一であつた。

旭硝子株式會社製板ガラス
赤菱印
菓子 壺
菓子 食器
其他各種

松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
支工場 仙臺市榮町(電五九七番)

咽喉專門

應入院
平町田町七〇番地
山内醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

御融通には！
是非御利用を……
萬事便利な御相談に應じます。

三井質店
平四・電六〇六番

長唄
花柳流
舞踊
御稽古を
おすゝめ
致します

ほしやなぎ
いかの鹽から
鱈魚の子

魚問屋
店理代平命生本日大最優最
榮 盛 賀 志
(三一電)目丁四平



かまぼこ製造
お惣菜用
さつま揚
吉原揚
平町一丁目
電話一四一番

試験問題は

極く平いに

寧ろ平常の成績に 重點を置く方針

▽矢野平商校長語る

平町各小學校上級進學希望児童は刻々に迫る試験地獄を前にして目下學校に家庭に受験準備に頭を悩ましてゐるが早くも新學年生徒募集の準備に取掛つた平商業學校の矢野校長を訪れ入學試験の方針に就いて尋ねた所左の如く語つた

入學試験は成るべく志願者の苦痛を軽減し教育上の弊害を除きたいと種々苦心して工夫を重ねてゐる

兒童貯金額

第一小學校調査

一人平均九圓六十九錢

平第一小學校の十二月末現在全校兒童の貯金額は尋常

科千二百七十五名にて一萬二千五百七十二圓八十二錢



巷の話題

新潟縣内野町上原せん(六)婆さんは寄る邊ない老いの一人身がたまらなく寂しいのだつた、折も折『ねえ、お婆さん、そんなに力を落さなくともいへよ、世の中は持ちつ持たれつといふ事もある、明日からは

高等科二百八名にて千八百十五圓七十七錢、合計一萬四千三百八十八圓五十九錢一人平均九圓六十九錢である

文部省主催の成人教育講座

植田小學校に四日間

石城郡下に於ける男女青年團を始め中堅農民等の成人教育講座は来る二十一日より四日間文部省主催にて植田小學校に開かれるが講師は本縣末原學務部長、長瀬

五千枚の兎皮を

郡下より買上ぐ

本縣に於ける陸軍省被服廠の第一回兎毛皮現地購入は昨年十二月福島市に行はれ本郡からも五千枚の兎皮を納入したが陸軍省では来る廿四、廿五、廿六の三日間第二回購入を行ふ事となつ

篠山校長出福

平第一小學校長篠山廉氏は来る二十四日午前十時より福島縣教育會館に開かれる實業教育振興會役員協議會に出席すると

造の講習會を開いたので本十六日午後一時より講習生四十五名に對して修得書の授與式を行つた

信用組合再興

神谷産業組合は事業不振から一昨年解散の儘になつて居たが農家經濟更生の上にも有用な機關として村長片寄爲藏氏が豫てより村有志と計り再興の運動中であつたが第一回の創立委員會を本十六日午後一時より同村小學校で開いた

平町人事

△古鍛冶町三六 山崎浩氏 長女悦子 回死

△研町一七 江竹治氏二女 季子

△研町大久保昌枝(一ツ)

木村科醫院

平町五丁目橋際 電話九〇三番

が養子になつてツンと樂にしたげるから……』と言はれて見ると賣藥行商だといふ若者の言葉が未頼もしく思はれて、遂ひ釣り込まれて『商賣の元手にする』といふ四十圓のヘソクリを手渡したのだつたが男は二度と歸つて來る筈はないおせん婆さんは口舌蜜よりも甘い世の人を目のあたり見せつけられて、身も世もなく嘆き悲しんでゐる。

よーし、われ等の要求を聞いてくれなきやア斯うして見せるぞ——と食糧や飲料やらをしこたま背負ひ込んで成るべく高い煙突にのぼることが三三年にはよく流行つたものだが、三四年の煙突男は氣が早い——名古屋市外庄内町庄内染工場(三)の精練工場長谷川年雄(三)は主人に不満を抱くところら同工場百五十八の煙突

によち上りざま大の字となつて飛び込み自殺を遂げ要求貫徹の犠牲となつた、タワリシトたちはもうくくとふき出している悲憤の黒煙をながめて、南無阿彌陀佛、ブルル……

松の内から縁起でもないのに新潟縣村上町は芽出度い三ヶ日を過ぎると急に冥十ゆきが殖え一日に三ツ四ツの葬式は必ず見受けるので、中には今日もお葬式明日もお葬式これじやおアクちゃんのコロッケどころでない、年がら年中お葬式とならねばよいがと聊か葬式疲れをしてゐる者さへあるさうだが、お蔭で寺の坊さんと隠坊は商賣繁昌芽出度い——とこゝ許葬式インフレでホク——兎角世の中は皮肉なものサと葬式疲れ氏からのたよりをそのま

全外科 醫學博士 渡部 義夫

小兒科 女 醫 渡部 きい子

平町田町大通り(電話二七七番)

入院應需 **渡部 外科**

モシヤ糸

毛糸が御安くなりました
相かわらず御用命の程を

並毛糸一オンス **十二錢五厘**
極太毛糸一オンス **十二錢五厘**

中細 極細 スキー印 ダイヤ印
アトラス ビーハイブ ホワイトヒース

田町 **ハシモトヤ糸店**
電話十四番

貴方の御家庭に
お手不足は御座いませんか

本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します

親切 料金は極めて低廉で
妊産婦の御家庭にお留守居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や雑用

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話呼六五二)
上原家政婦會
會主 産婆 上原通子

火力問題が

刑事事件を惹起

けふ色川氏が告訴状提出

るに至つた

平町才穂小路色川勝三郎氏は過般の町會で町議緑川喜三郎氏が色川製材工場の火災は色川氏が保険金を詐取する目的で放火したとの口吻を洩らしたと本日武田辯護士を代理人とし緑川町議を相手取つて平署に名譽毀損の告訴を提出した是れに依つて火力製材所の問題は遂に刑事事件に迄波及す

平町壯丁出發

一丁目關原司君は本日電信第一聯隊に入營の爲め午前十時四十分にて平署を出發したが櫻町横田備中君は飛行第一聯隊に入營の爲め来る十八日午後九時一分にて出發すると

發狂青年が

夜中に飛出し

鐵道で自殺す

湯本町字青葉下居住坑夫吉松弟安田利七(七)は數日前神經衰弱が昂じ精神に異常を呈したので家人が監視中本十六日午前一時頃家を飛

出し午前二時半頃同町字實海地内常磐線上り線路内で折柄進行して来た上り急行列車に飛び込み頭部及び足部を轢断されて即死した

甲板から墜落し

頭部を粉碎即死

江名町字北町居住漁夫金成定藏(三)は去る十日漁船廣運丸に船長大久保清吉外十二名と乗組み宮城縣金華山沖合十五哩の地点に出漁中誤つて甲板から船底に墜落鐵管に頭部を打つて即死した

延期中の

十三日會

松野尾中佐を中心にして座談會平町十三日會例會は去る十三日丸友ホールにて開かれ

る筈であつたが講師の都合で延期中の處昨十七日午後六時半より丸友ホールに於いて陸軍歩兵中佐松野尾勝明氏(松野尾辯護士の令兄)を招き熱河討伐に關する軍事座談會を催す事になつた

助成會の

名義變更

平町共濟事業助成會では今回平町社會事業助成會と名義を變更する事となつた

赤井藥師炎上の

失火僧侶罰金に

本日略式命令さる

昨年十一月三日失火し遂に烏有に歸した赤井村崗伽井嶽藥師の失火原因は平區裁判所三堀檢察官が取調べ中の處寺内徒弟渡邊榮照(三)が烈風も顧みず本堂裏に掃き集めた落葉を焼く際注意を怠り火の紛を本堂の木羽葺屋根上に飛散せしめ出火したる事判明失火罪と決定、本日略式罰金四十圓に處された

青年幹部

新年懇親

平青年團にては来る十九日午後六時より住吉屋本店に於て幹部の新年懇親會を催すと

出陳成績準備

各小學校は既報の如く来る二月上旬小名濱小學校に於



十七日

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) お話(飯入)南木芳太郎 後六、二五(ことばの講座)「ことばに遣ふ」音聲第一 講神保格 後七、三〇 講演「自化自育の教養」岐阜高等農林學校長 草場榮喜

明日の部

前七、〇〇 基礎英語講座 岡倉由三郎 前九、一〇 料理献立「蠟の衣揚」朝倉長吉發表 前一〇、三〇 家庭メモ 前一〇、三五 家庭講座 「百人一首かるたの家庭的に進んだ遊び方」青柳梅藏 後〇、〇五 滿洲より 後二、〇〇 婦人講座「歌作に對する私の態度」若山喜志子

今流行の唄

福島音頭 東京音頭 昭和音頭

其他流行歌各種取揃へてあります

金光堂時計店

平町五丁目 電話一九五

市原醫院

平町一田町 電話一四番

裁判所だより

△江名町大字江名字折戸六六漁夫吉田藤四郎(三)は禁止區域の四倉町沖合約三海里に於て漁業を行ひ機船底曳網漁業法取締規則違反として各罰金八十圓
△江名町大字江名字折戸漁夫山野邊數馬(三)及び同所漁夫作山普治郎(三)も禁止區域四倉町沖合約三海里に於て漁業をなし機船底曳網漁業法取締規則違反として罰金百圓宛本日各平區裁判所に於て略式命令を以て處分された

平職業紹介所報告

△人を求める方 回交員 三十五才 尋卒 金額の三割給す
△行儀見習 廿一迄 高卒 月六圓以上
△女中 十八才 尋卒 月三四圓

市原醫院

△出前持 二十前後 尋卒 月四圓外仕着
△回職を求める方
△小使 三十六才 高卒 給料面談
△鐵工 十六才 高卒 給料面談
△製糸職工 二十八才 高卒 給料面談
△土工夫 三十五才 尋卒 給料面談
△新聞配達 十七才 高卒 給料面談

鼻病、腦病 化學治療薬 ビノサン

小壹圓貳拾錢、中貳圓、大五圓 著腦症其他鼻病と頭痛症神經衰弱等の諸症が簡單にして他に類の無い一日一回の用藥で手軽に僅かな費用で治療の出来るビノサンが發表されました今すぐ用て劃期的快癒の喜を得て下さい 御來店の方に鼻病説明書無代進呈此廣告 御持參の方に一人一回試藥致します

福島縣平町白銀町五(千代メッキ店裏)

石城郡特約店 村山書店 販賣御希望の方特に御相談に應ず

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

銘劍秘双録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第三百二十二回 徳川家に崇る村正

早くも當りつく

五左衛門グツスリ一寝入りして目を覚ます、モウ障子に日がカンカン差してゐる、布團の中でグツと伸びをして、ムツクリ起き上つて障子を開けると、直ぐ前は海遠く近く帆を上げた船が十二三艘手摺につかまつて下を見下すと、石崖にボチャリ／＼浪が打ち寄せてゐる、外海のやうに綺麗ぢやアないが、只今の品川よりは綺麗だつた、海の景色に見惚れてゐる後から

「モシ……」
と五左衛門に手をかけた脛に疵持つ身の五左衛門、ドギツとして、振り返つて見ると、昨夜一寸見た合方の女郎が立つてゐる

五「アツ、お前か、突然に吃驚するではないか」
女「マア仰山に、呆放らし

い」
五「ホ、ウ、お前は上方者だな」
女「妾は京です」

五「京か、夫は、京は女の名所だ、然し大分遠くへ来たものだな矢張親兄弟の爲か、或は好きな男の爲に斯様な處へ身賣りをしのか」

五「お勤めを……どういふ身分だ」
女「大納言」
五「何だと」
女「父さんが大納言で、叔父さんが中納言、兄さんが小納言」
五「フ、ム、お前の情夫と

いふのは何だ」
女「左大臣」
五「イヤ此奴宜加減の事はかり申す奴だマア宜い／＼顔を洗はして貰はう」
下へ降りて顔を洗ひ、元の部屋へ來ると、チャンと片附して掃除が出来てゐる
五「マア一杯飲まして貰はう、朝の事だから何でも宜い、アツサリした肴を誂へて呉れ」
敵娼や新造遺手でチャホヤ取持つ、川柳にも
「品川の容人篇のあるとなし」と云つて、坊主と侍が重なるお客だつた、夫といふのは芝の増上寺の坊さん



と薩摩の家來が吉原より近いから品川へ遊びに行つた人篇を附ければ侍人篇を取れば寺となる、川柳子は旨い事を云ふもので、日頃から扱ひつけてゐるから武士を待遇するのが皆な上手だ五左衛門好い氣になつて、

晝過ぎまで飲んで、飯を食ひ
五「大きに厄介になつた、近い内に來るぞ」
と、機嫌をよく其處を立出で、駕籠に揺られて鳥越の屋敷へ立戻る此方は大音寺前、丁度五左右衛門が悪事を働いた時に通り掛つたのが入谷の鐵五郎といふ御用間の子分で三吉といふ男提灯の燃え上つた光で見ると、覆面をしてゐて顔は分らないが、確に武士、迂濶に飛掛つた處で敵はないから物陰に隠れて様子を窺つてゐる間に向ふが急ぎ足に歩き出したから後を尾けつ行くこと入谷へ出た、そこで一寸親分の家へ寄つて、言葉短に大音寺前に人殺しのある事を知らせ、自分は尙も後をつける、モウ武士の姿は見えないが途中でチョイ／＼商人などに聞いて、當りを取りながら行くと、淺草の廣小路へ出て、駕籠に乗つた事が分つた、其の籠屋も大體見當がついたから、夫までにして引返して來る、入谷の鐵五郎は三吉の知らせに依つて、早速町方役人の方へ知らせ、自分も直ぐに現場に出張して、何か手掛りはないかと調べ、殺された浪人の懷中を檢ためると賊の目につけなかつた財布が出た、金は錢や何か取混ぜて二兩ばかり入つてゐる、外に貸金の書附と、名札が入つてゐた、夫によつてこれは下谷徒士町に住んでゐる青雲堂といふ手習の師匠で鈴木重兵衛

といふ中國の浪人者と分つた、堅い人物ではあるが却々理財に長けてゐて、浪人した時に家財道具、その他不用の品は全部賣拂つてしまつた先祖から譲られた鎧一着之さへも浪人者には必要がないと賣拂つて金にした、又其の鎧櫃に先祖が萬一の時の必要にと入れて置いた軍用金、さういふ物を合せると可なりの大金になつた夫を持つて江戸へ出て來て、一軒家を借り、手習師匠の傍ら小金を貸し始めた、稽古の方は奥さんと伴の重太郎が代稽古をするから、重兵衛は暇に任して元利の取立てに廻つてゐる、今日も丁度其の用で歩いてゐる此の災難に出遇つたのでござります。

科病柳花 科兒小 科内
院醫沼藤
需應院入
町屋紺町平 番七〇五話電

専門 内科一般
宅診 内科は何でも診療致します
往診 呼吸器病ばかりではあまりせん
平町南町六五
川井内科診療所
醫學士 川井重之
女醫 川井安子
電話一八一番

耳鼻咽喉科専門
鈴木醫院
醫學士 鈴木正男
平町田町(電話五八番)
藤田女學校前
自炊のお需めに應ず
入院の便あり

貸切の御用命の際は是非電話六四〇番
尼子タクシー部
電話六四〇
喜多流謠曲と仕舞の
お稽古をお勧め致します
喜多流 謠曲 仕舞 白土會
平田町六九
電話一二七番
◇詳細は本會へ御問合せ下さい。